

静岡県漁業協同組合連合会

982 静岡市追手町 9-18
14.2.22 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成14年度組織改正で「水産総室」の新設が決定

県では、このほど平成14年度の組織改正を発表しました。

それによると、環境部と農林水産部は環境森林部と農業水産部に再編され、これに伴い林業部門は環境森林部へ移管されるほか、農業水産部内は生産振興総室と経営支援総室がなくなり、新たに農業総室とともに水産業界が強く要望していました「水産総室」が設置されることになりました。

この水産総室は、水産振興室、水産資源室、漁港整備室に水産流通室を新たに加えた4室からなり、水産流通室は総室内の人事、予算及び経理の統括、水産物の流通加工、漁協等の経営指導、水産業の金融などを主な事務内容としており、水産資源室及び漁港整備室は従前どおりですが、水産振興室は一部変更がなされ、水産行政の調査、企画及び調整、水産業の改良普及、沿岸漁場整備、海洋深層水の利活用推進などとなっています。

なお、漁協等の検査を行う組合検査室は農業水産企画総室内に設置されます。

2. 平成13年水産物輸入高発表 史上最高の382万2,685トン

日本水産物貿易協会では、このほど平成13年の水産物輸入高(財務省発表輸入通関実績に基づく速報値)を発表しました。

それによると、輸入量は円安下にもかかわらず382万2685トン(前年比7.9%増)と3年連続で増加しており、これまで最高だった平成7年の358万1,983万トンを大きく上回り、過去最高を記録しましたが、金額は1兆7,204億円(同0.8%減)と4年連続で減少しています。

品目別では魚粉・ミールが47万3,160トン(同42%増)と最も多く、次いで生鮮・冷蔵・冷凍「その他魚」の28万59トン(同27%増)、サケ、マスの27万6,480トン、その他の調整品の24万7,710トン、エビ(シュリンプ・プローン)の24万5,274トンとなっています。

また、金額ではエビが2,768億円1,100万円が最も多く、次いでサケ・マスの1,089億5,100万円、その他の調整品の1,932億3,500万円が続いています。

3. 輸入物との価格差など主要都市の小売店で大規模調査実施へ

農林水産省では、近年輸入物に押され厳しい状況下にある農家や漁業者に対し、的確な情報を提供するため、平成14年度から新たな市場調査を開始し、全国の主要都市の小売店で、輸入と国産の生鮮食料品の価格、販売量などを把握し、同一品目でどのような違いが出るのかを分析します。

対象は野菜や青果、畜産と水産物で、具体的な品目や調査方法、実施地区などは検討中で、同省の生鮮食料品についての統計情報では、「産地や卸売市場での調査が中心で、小売

段階での価格や数量などはあまり調べられてこなかった。水産物の大規模な小売価格調査はほとんど例がない。」(同省統計情報部)が、輸入物の台頭で国内生産者が窮地に陥るケースが増えているため、小売段階でその実態を調査し、「価格面などでどのような開きがあるのかを示せば、生産者の競争力強化への一つの基準となるのでは」(同)として、新たな調査を開始することになりました。

なお、具体的な品目のうち、水産物については「輸入物との格差を示すことに意味のある魚種などを選定するよう、これから水産庁と連携して決定する」(同)としています。

4. 県TAC(漁獲可能量) 1月末漁獲実績を発表

県では、このほど県TAC対象5魚種の1月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがTAC数量10,000トンに対し、6トンで消化率0.1%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し34トンで消化率0.4%、またTAC数量が若干量の魚種では、サンマ59トン、マアジ96トン、スルメイカ13トンとなりました。

5. 新刊図書紹介「漁業崩壊」 全国各地の漁業と地域の活性化事例を掲載

まな出版では、このほど新刊図書「漁業崩壊 - 国産魚を切り捨てる飽食日本 - 」を刊行しましたので紹介致します。

本書は、水産資源研究と産業論的考察を加えた漁業活性化の研究書で、低下する市場機能と生産者魚価の分析とともに、漁業の卓越した食料供給力に着目し、食料産業として再評価を迫っています。

また、地元で水揚げ消費する「三重県鳥羽市」の例や、生産者サイドの流通を展開する漁民会社を設立した「千葉県千倉町」の例など、全国各地17の漁業と地域の活性化事例を掲載しており、漁業復活のアイデアを暗示する生産者たちの知恵を紹介しています。

価格：定価3,200円(税別、送料500円) 発行所：まな出版 東京都中野区沼袋1-5-4
TEL 03-3319-3127 FAX 03-3319-3137

6. 諸会議・日程(2月26日(火)~3月12日(火))

- 既報分省略 -

3月 5日(火) 県漁連 = 指導対策委員会幹事会 (県水産会館)

3月 7日(木) " = 県トラフグ資源管理型漁業実践推進漁業者協議会 (")

" " = 県ヒラメ資源管理型漁業実践推進漁業者協議会 (")

" 県桜えび漁業組合 = 出漁対策委員会 (伊豆長岡町・八景園)

" 県桜えび漁業組合船長部会 = 監査会、役員会、総会 (")

3月 8日(金) 県漁連 = 密漁防止対策講習会 (伊東市漁協)

" " = 平成13年度船舶職員養成講習会閉講式 (県立漁業高等学園)

" 県超短波漁業無線協会 = 監査会、役員会、総会 (伊豆長岡町・三溪園)

3月11日(月)・12日(火) 県しらす船曳網漁業組合 = しらす漁海況予察研修会

(11日 = 福田町・浜名漁協、12日 = 吉田町・静岡漁協)